

政務三役と長期失業者支援事業及び基金訓練による就職者等との懇談会
(第1部：長期失業者支援事業)

日時：平成22年1月16日(土) 15:30～16:30

場所：厚生労働省 大臣室

出席者：

(厚生労働省)

長妻 昭 厚生労働大臣

細川 律夫 厚生労働副大臣

山井 和則 厚生労働大臣政務官

小川 誠 職業安定局雇用政策課長

田中佐智子 職業安定局雇用政策課企画官

(長期失業者支援事業による就職者)

Aさん(40代前半：男性)

Bさん(50代前半：男性)

Cさん(50代後半：男性)

Dさん(40代後半：女性)

(長期失業者支援事業の実施事業者)

テンプスタッフ転身サポート(株)

(株)キャリア総合研究所

<長妻大臣>

長期失業者支援事業について具体的な内容、またその良い点悪い点をお聞かせいただきたいと思います。まずはAさんから教えてください。

<Aさん>

どのように就職先を探していけばよいのか、また、職務経歴書の書き方などを専門の指導員からアドバイスをいただいた。

<長妻大臣>

具体的にどのようなアドバイスがありましたか。面接の受け方や服装についてのアドバイスなどということでしょうか。

<Aさん>

服装などについては特にありませんでしたが、面接での企業へのアプローチの仕方についてなど。

<長妻大臣>

そういったカウンセリングはどこで行っていたのですか。また、マンツーマンで行っていたのですか。

<Aさん>

支援事業者の事務所にて、だいたい週1～2回のペースで担当コンサルタントとマンツーマンで相談をしていました。

<長妻大臣>

この事業による支援はいつから受けていて、その後、いつ就職したのですか。

<Aさん>

9月上旬から支援を受けて、10月下旬に就職できました。

<長妻大臣>

担当コンサルタントについて、特にここが良かったという点がありますか。

<Aさん>

就職活動に際して、一緒に活動方法を考えてもらえる点や支援事業者と以前から関係のある民間企業に対して、推薦してもらったことが良かったと考えています。

<長妻大臣>

Bさんは、どのような点が良かったということがありますか。

<Bさん>

ほぼ同じですが、一人で就職活動を行わなくて良いところが良かった。また、履歴書などの書き方を丁寧に指導していただいたことや、今後の生活についても相談することができた点が良かった。

<長妻大臣>

履歴書の書き方以外については、こういった支援がありましたか。

<Bさん>

挨拶から面接での受け答えまでアドバイスをもらいました。

<長妻大臣>

一番良かった点はこういったところでしょうか。

<Bさん>

将来を含めて一緒に考えてもらえる点が良かった。

<長妻大臣>

マンション管理の仕事ということは、前とは違う仕事ですが、適性をみて紹介をされたということでしょうか。それがなければ、まだ就職できていなかったと考えられますか。

<Bさん>

そうだと思う。

<長妻大臣>

Cさんはこういった支援を受けましたか。

<Cさん>

ハローワークでPC検索して応募していましたが、書類選考で落とされるのがほとんどでした。特に年齢で引っかかってしまい、面接までたどり着けないことが多い。もともと生活に困っていなかったのに、なんとなく決まれば良いかな程度に考えていたが、失業給付も終わり、自分の人生を考えた。その後、再度ハローワークに行って、民間でも職業紹介してもらえるところはないかと相談したところ、ハローワークから長期失業者支援事業について紹介がありました。

テンプには「最低どこまで条件を落とせるか」というところから相談し、職務経歴書の書き方などをマンツーマンでアドバイスしてもらい、私の適性にあった求人を紹介してくれたので、1か月で就職することができた。

<長妻大臣>

離職してから、どれくらい面接をしたのでしょうか。

<Cさん>

80社ほど応募をしたが、面接までたどりつけたのは、4社ほど。当初は、離職時と同じ職種である営業職を希望していたが、希望職種に幅を持たせてはどうかとアドバイスをいただいて、就職に結びついた。

<長妻大臣>

Dさんはどういった支援を受けましたか。

<Dさん>

この事業についてはハローワークから連絡があり、支援を受けることになった。

テンプには職務経歴書の書き方について「昔のことではなく最近のことを書いた方がいい」「1ページ目を大事に」などのアドバイスをもらった。

<長妻大臣>

担当のコンサルタントとは、週に何度か会っていましたか。

<Dさん>

事務所に行ったのは最初の1回のみでした。あとは、メールでやり取りを行っていましたが、自分は個人的に受講料を払って、医療事務の資格を取って就職しました。

<長妻大臣>

メールはどのくらいのペースでやっていたのですか。

<Dさん>

相談は月に1回くらいでした。

<長妻大臣>

では、就職に結びついた一番のポイントは、医療事務の資格を取ったということですか。

<Dさん>

そうだと思います。

<長妻大臣>

次に事業者の方にお伺いします。

この長期失業者支援事業は、まず就職の成否に関わらず13万円が支給され、その後、支

援開始から3か月以内で就職させた場合には8万円、就職して6か月間定着した場合には6万円が支給されるという仕組みです。この長期失業者支援事業という制度について、良い点や悪い点などはどういったところですか。

<テンプスタッフ転身サポート(株)>

平成16年から18年に実施した時には、延べ78地区で約4,300名に支援をし、その時は約2,000名が就職されました。最新のノウハウを提供するとともに、ほとんどの方が前職と同じような仕事を希望しますが、希望する転職先に幅をもたせた方が良いなどアドバイスをしています。

<長妻大臣>

対象者の方には、週にどのくらい支援を行っているのですか。

<テンプスタッフ転身サポート(株)>

概ね週に2回前後の面接を行うようにしています。

<長妻大臣>

事業者からすれば、例えば、Dさんのように最初に一度面接しただけでも13万の報酬が得られることもあります。

<テンプスタッフ転身サポート(株)>

中には自助努力で積極的に求職活動をされる方もいらっしゃいますが、何十回とカウンセリングを行っても就職に結びつかない方もいて、色々な方がいらっしゃいます。対象者は、1年以上離職されている方々なので、短期間での就職は正直厳しい方が多く、まずは心のケアも必要であると考えています。

<長妻大臣>

キャリア総合研究所さんはいかがですか。

<(株)キャリア総合研究所>

当社では、平成16年から18年では、約800人の求職者の方をお預かりして、就職率は50%程度でした。対象者の傾向はその頃とあまり変わってない印象ですが、今回は雇用情勢も当時より厳しく、50%を下回るのではないかと感じています。やはり心が減入っている人も多いため、そこからリカバリーする必要があると考えています。

<長妻大臣>

対象者の方には、週にどのくらい支援を行っているのですか。

<(株)キャリア総合研究所>

個別カウンセリングは、週に1回ペースで4回実施し、その後も必要に応じて行います。また、求人開拓者を含めた3者面談も行っています。対象者の方のキャリアにあった就職が難しいとなると、キャリアの転換の相談も行っています。その場合、ご家族とよく相談する事をお勧めしています。女性の方は特にキャリア転換が難しく大変だと感じています。

<細川副大臣>

成功する人としらない人には、何か理由がありますか。

<(株)キャリア総合研究所>

やはり精神面または肉体面でハンディがある方は難しいです。また、1年間で数十社も応募して就職できないとなると、どうしても元気がなくなってしまうので、まずは、気持ちを元に戻して、正常な状態にすることが大事です。

<山井政務官>

この事業は、1年以上求職活動している人全てに連絡をしているのですか。何かセレクトはしていないのでしょうか。

<小川雇用政策課長>

基本的にはハローワークで必要かどうかを判断して紹介していますが、本人からご希望があれば、それも踏まえて判断しています。

<山井政務官>

セレクトの判定基準はどのようになっているのですか。

<小川雇用政策課長>

ハローワークでは1年以上の求職活動を見続けてきていますので、そのような中から民間の支援を受けると就職の可能生が広がるのではないかと思われる方に声をかけています。

<長妻大臣>

皆さんはどのように申込みをされたのですか。

<就職者全員>

ハローワークからの紹介です。

<山井政務官>

今はどのくらい対象者が支援を受けているのですか。

<小川雇用政策課長>

約5,000人程度。その中で366名が就職されています。

<細川副大臣>

支援の途中で辞めてしまう人はいるのですか。

<テンプスタッフ転身サポート(株)>

ごくわずかではありますが、3%くらいの方が2か月程度でやめてしまいます。

<長妻大臣>

アフターフォローはあるのですか。

<テンプスタッフ転身サポート(株)>

就職後もこちらから連絡をして状況を確認するとともに、何かあればいつでも連絡をしてほしいと伝えています。

<山井政務官>

本来、こういった支援はハローワークの仕事であり、ハローワークでの支援が不十分ということになるのではないですか。

<小川雇用政策課長>

現在ハローワークは大変に混み合っており、ある程度短い時間の中で数をこなす必要があります。そのような中で、特に長期にわたって求職活動している方には民間の協力を得てじっくりと支援を行おうという考えで実施しています。

<長妻大臣>

イギリスでもこのような事業があるのですか。

<小川雇用政策課長>

エンプロイメントゾーンという同様の事業があり、今回の事業もそれを参考にしたものです。

<長妻大臣>

最後に皆さんから行政に対する要望などがあればお聞かせください。

<Cさん>

求人に応募するにあたって年齢の記載を改善して欲しい。求人を申し込む場合、年齢不問と記載することになっているみたいだが、これでは探す方からすると企業がどのような年齢層を求めているのかが分からなくなり、結局、書類選考によって年齢で落とされることになっています。企業の中にも特に40～50代の職務経験を有している人が欲しいなどといった要望もあるはずなので、そういったことを具体的に明記していただきたい。

<Dさん>

自分が受けたサービスにこんなお金が支払われているということに驚いた。支援自体はありがたい反面、正直あまりよく分からないまま支援を受けることになっていた。

<長妻大臣>

これは本質的な問題ではないだろうか。全員に勧めるのではなく、必要な方に受けてもらうためのハローワークでの対応が大事である。対面でコストがかかることを説明した上で、対象者を選定することが重要で、その辺を研究してもらいたい。

<小川雇用政策課長>

分かりました。

<長妻大臣>

本日は貴重なご意見を聞かせていただきありがとうございました。

以上をもって終了。